

水泳専門部競技力向上への取り組み

埼玉栄高等学校 青木裕憲

1 全国高校総体の成績（今年度）

競泳 ・男子 春日部共栄高校 総合第2位
・女子 埼玉栄高校 総合第2位

2 埼玉県の現状

埼玉県は、ジュニア年代からの選手育成が盛んであり、全国クラスの選手が多数在籍している。その中で毎年、全国中学、全国高校総体で優勝者を輩出し全国に水泳王国埼玉の名を轟かせている。各全国大会に出場している選手数も全国の都道府県を見てもトップクラスの選手数を大会に出場させている。

近年では、昨年の国民体育大会において東京都の連覇を阻み天皇杯を獲得。また、昨年はロンドンオリンピックに埼玉県から高校生も1名出場を果たし、今年は競泳の世界選手権において埼玉県出身である大学生が日本人初となる個人メドレーでの優勝と国内外問わず活躍の場を広げている。

3 大会

県学校総合体育大会 1校1種目につき3名までの出場制限がある。各種目において8位入賞を果たし、なおかつ関東大会標準記録を突破した者が関東大会へ出場。

関東大会 順位に関係なく、全国高校総体標準記録を突破した者が全国大会へ出場。ただし、突破者がいない場合でも各種目3位入賞を果たしたものは全国大会へ出場できる。

全国大会 標準記録を突破したものが出場できる。埼玉県は毎年200名前後の選手が出場している。8月中旬に4日間で行われる。

4 競技力向上への取り組み

・選抜強化合宿 毎年1～2回ほどその年度各県大会で入賞した者の中から選抜し強化合宿を行っている。スイミングスクールが主流の中、この合宿は原則的に学校で練習を行っている者が中心で、この中からも全国大会で活躍するような選手も育ってきている。

- ・指導者講習会 年に数回、各学校水泳部顧問に通達し、任意で講習会を行っている。公立では顧問が数年で変わることもあるため、水泳競技指導経験がなく、指導に悩む顧問も多くいる。そのような中で、水泳専門部の指導者が日頃の練習や、合宿の際にどのような指導を行っているかなどを講習することで、水泳競技指導経験のない顧問にも水泳競技の指導法を学んでいただき、日頃の指導に役立てていただいている。今年も国立科学スポーツセンターより、実際に競泳日本代表の陸上トレーニングしている方に来ていただいて指導法を学び、生徒への声かけや、水泳競技のトレーニング理論についても学んでいただき、常に工夫洗練された指導がなされるための知識として活用していただいている。また、県大会では各学校から役員を出してもらうこともあり、大会役員の資格取得も含めた講習会も実施している。

